

シンポジウム | 特別講演

## 歯科衛生士シンポジウム

### 歯科衛生士が知っておきたい多職種連携のための Up to Date

座長:小原 由紀(東京医科歯科大学大学院口腔健康教育学分野)、須田 牧夫(日本歯科大学口腔リハビリテーション科)

Sat. Jun 23, 2018 2:40 PM - 4:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【小原 由紀先生略歴】

1998年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業

1998～2010年 開業歯科医院勤務

2008年 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科卒業

2010年 首都大学東京大学院修了・修士(健康科学)

2014年 東京医科歯科大学大学院修了・博士(歯学)

2014年～ 東京医科歯科大学講師, 東京都健康長寿医療センター非常勤研究員(～現在)

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(老年歯科)

日本歯科衛生士会理事

所属学会: 日本老年医学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯周病学会, 日本口腔衛生学会

【須田 牧夫先生略歴】

1996年3月 日本歯科大学歯学部卒業

1996年4月 日本歯科大学歯学部附属病院臨床研修歯科医師

1997年3月 同 修了

1997年4月 同 高齢者歯科診療科臨床研究生医員

2001年1月 同 総合診療科

2001年10月 同 口腔介護・リハビリテーションセンター併任

2003年4月 同 総合診療科助手

2007年4月 同 総合診療科講師

2011年4月 同 口腔リハビリテーションセンターセンター長

2014年4月 同 口腔リハビリテーション科講師

口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長代理

2015年4月 同 医長

2018年4月 日本歯科大学口腔リハビリテーション科臨床講師

現在に至る

【抄録】

超高齢社会が進む中、高齢者への食支援は今後ますますニーズが増していくと考えられます。歯科衛生士は、口腔衛生管理・口腔機能管理の観点から食支援に関わることとなりますが、支援の質を向上させるためには、課題を明確化するため情報と目指すべきゴールを多職種と共有する必要があります。しかしながら、多職種連携は「言うは易く行うは難し」で、現場ではさまざまな課題に直面することとなります。

今回、それぞれの職種の知識の基盤や視点をよく知ることが連携を円滑にする第一歩と考え、本シンポジウムを企画しました。草間里織先生の歯科衛生士からの問題提起に続き、看護師の柴崎美紀先生、言語聴覚士の石山寿子先生、管理栄養士の本川佳子先生より、それぞれの視点から食支援の実践のために把握しておくべき知識や連携のあり方について提言をいただきます。皆さんと最新情報へのアップデートと活発なディスカッションをしていきたいと思っております。

## [S10-3]職種の枠を超えた先にあるもの

### ー QOLに貢献する支援の実現をめざしてー

○石山 寿子<sup>1</sup> (1. 国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科)

【略歴】

言語聴覚士、歯学博士

1988年 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院聴能言語専門職員養成課程卒業

富士見台聴こえとことばの教室，リハビリテーション天草病院，医療法人社団永生会を経て2017年より国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科准教授

日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

日本言語聴覚士協会専門士（失語・高次脳機能障害領域）

日本コミュニケーション障害学会編集委員

所属団体：日本老年歯科医学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本嚥下医学会，日本静脈経腸栄養学会，日本ボバース研究会

医科・歯科の多職種連携で特に身近なのは，摂食嚥下領域であろう。なかでも訪問による摂食嚥下支援は，多職種が連携しながら，「たべること」の支援を通じて，その方やご家族のQOLに貢献する活動と位置づけられる。特にコメディカルの立場で摂食嚥下障害という生命に関わるうえでは，よりQOLに貢献するうえでも多職種で支え合うリハビリテーションは必須である。そして，ケアや患者の意思決定を尊重した「生きる」部分にシームレスに関わる姿勢が重要である。患者を支援している多職種が同時に関わる機会は少ない。われわれ言語聴覚士や歯科衛生士は，医療職であるからこそその強みと弱みを認識しながら，強みの部分では積極的に，弱みの部分には多職種や患者当事者や家族の助けを得ながら，円滑かつ上質な支援のために必要な連携の視点を考えたい。支援は個々ではあるが，毎日がトライアルにならないための方策の検討が望まれる。